

# 未来をひらく

## 平成27年度予算教育委員会主要政策

教育委員会では、「元気発進！北九州」プランの部門別計画である「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」及び「北九州市生涯学習推進計画」を着実に推進しています。  
子どもの教育の分野では、教育プランに掲げる基本方針「教育日本を実感できる環境づくり」を目指し、「子どもの教育」に対する満足度を高めるとともに、市民の参画を進める取組みを総合的に推進します。  
平成27年度に取り組む主な事業について紹介します。

### ◆「子どもひまわり学習塾」事業

児童生徒の主体的な学習習慣や、基礎的・基本的な学力の確かな定着を図るため、放課後等を活用して学習機会を提供する「子どもひまわり学習塾」の対象校を拡充して実施します。

◆実施校数 小学校 31校 ↓ 70校  
中学校 11校 ↓ 24校 5拠点  
※平成27年度から全中学校を対象



子どもひまわり学習塾の様子

### ◆北九州市学力状況調査事業

小学校から中学校まで児童生徒一人一人の学力を継続的に把握・分析し、学力の向上に役立てるため、新たに、本市独自の学力調査を実施します。  
また、中学3年生全員を対象に、英語能力判定テスト(英検3級程度)を実施し、生徒に求められる英語力や学習状況の把握・分析を行い、本市の英語教育の更なる充実を図ります。

◆学力状況調査 小学5年生、中学1・2年生  
◆英語能力判定テスト 中学3年生

### ◆学校支援のための市費講師配置事業

学力向上、いじめ・非行対策など、学校の課題や状況に柔軟に対応し、学校運営を一層円滑に進めていくため、市費講師を拡充配置します。

### ◆学校の読書活動推進事業

子どもたちが読書に親しむ環境を整え、学校図書館の利用を促進するため、中学校区に配置する学校図書館職員等の充実を図り、学校における読書活動を二層推進します。



図書館職員等による図書レイアウト

### ◆小中一貫・連携教育の推進

2つの中学校区を「小中一貫教育モデル中学校区」に指定して、現行の小中学校の施設のもとで、9年間の連続性・系統性のある効果的な教育の推進方策について、2年間で今後の方向性を検討します。

◆小中一貫教育モデル中学校区  
南小倉中学校区(南小倉中学校、南丘小学校、南小倉小学校)  
花尾中学校区(花尾中学校、花尾小学校)

### ◆「チーム学校」運営・推進事業

学校を取り巻く環境が複雑化し、さまざまな教育課題への対応を迫られる中、特に生徒指導上の諸問題に対応するため、スクールソーシャルワーカー(注)やスクールカウンセラー(注)など専門性を持つスタッフを拡充し、教員とともに「チーム」として学校の教育力を高めます。

(注)スクールソーシャルワーカー  
社会福祉士又は精神保健福祉士の資格を有し、不登校や暴力行為など、問題を抱える児童生徒が置かれた複雑な家庭環境に働きかけたり、関係機関との連携の強化を図る職員。  
(注)スクールカウンセラー  
児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する臨床心理士等の職員。

### ◆特別支援教育の充実

知的障害のある児童生徒数の増加等に対応するため、知的障害と病弱を対象とする門司総合特別支援学校を整備するとともに、総合療育センターの再整備に伴い、肢体不自由と病弱を対象とする(仮称)北九州総合特別支援学校の新校舎を整備します。  
また、障害のある幼児児童生徒への適切な指導・支援体制の整備を一層推進するため、小学校入学前からの早期の教育相談・支援体制の充実を図るとともに、市費講師や特別支援教育介助員などの配置・活用を行います。

### ◆地域と連携した学校支援

経済界と連携することで、企業がもつ人材や経営ノウハウなどを生かし、出前授業や児童向けの体験学習、教職員を対象とした研修などを行い、平成27年度も対象校を拡充して取り組みます。  
教員が子どもと向き合う時間の確保や地域の教育力の向上を図るため、地域コーディネーターを配置する学校支援地域本部の設置校を拡充し、地域の協力のもと、さまざまな学校の教育活動を支援する体制づくりを推進します。

◆経済界との連携による学校支援事業  
対象校数(小学校) 40校 ↓ 70校(予定)  
◆学校支援地域本部事業  
実施中学校区 42中学校区 ↓ 47中学校区(予定)



小学校応援団(走り方教室)

### ◆「北九州市中学生合唱フェスティバル」開催事業

音楽を通して、子どもたちに豊かな情操を育むとともに、音楽や合唱に親しむ本市の文化的風土を醸成するため、「北九州市中学生合唱フェスティバル」を開催します。

### ◆小中学校等空調設備整備事業

良好な学習環境を確保するため、小中学校等の普通教室にエアコンを整備します。平成27年度は全中学校の普通教室に整備します。

### ◆学校施設の防災機能の強化

学校施設に必要な耐震性を確保するため、平成27年度を目標として施設の耐震補強工事を実施します。また、災害時の避難場所でもある学校施設の安全と安心を確保するため、体育館等の非構造部材の落下防止工事を実施します。

◆耐震補強工事 18校(小学校9校、中学校9校)  
※耐震化率 平成26年度末93.3%  
↓平成27年度末100%(予定)  
◆天井等非構造部材落下防止工事 20校  
(中学校18校、特別支援学校1校、高等学校1校)  
◆非構造部材照明确認落下防止工事  
小学校屋内運動場 10校  
中学校屋内運動場 10校  
中学校武道場 32校

### ◆ひびきの小学校新設事業

北九州学術研究都市整備事業の進捗により児童数が増加し、本市の分離新設基準を超えた光貞小学校の教育環境を改善するため、ひびきの小学校の校舎新設等に着手します。



ひびきの小学校(イメージ図)

# 総合教育会議の開催

総合教育会議とは・・・法律により定められた、市長と教育委員が教育について意見を交換する場です。

5月18日に初めて開催された会議では、以下について活発に意見が交わされました。

## 今後の本市子どもの教育施策の方向性について

### (1)本市子どもの教育の現状と課題について

まず、教育長より、6つの項目について説明がありました。

- ① 学力、体力
- ② 心の育ち、基本的な生活習慣
- ③ いじめ、不登校
- ④ 特別支援教育
- ⑤ 教育環境の整備
- ⑥ 学校、家庭、地域の連携

### (2)子どもの教育を支えるため、市全体で取り組むべき主要事項について～子どもたちのシビックプライドの醸成～

続いて、市長から、教育委員会と関係部局が連携し、一体となって進めるべき4つの柱について説明がありました。

特に、子どもたちに「シビックプライド」を醸成することが必要との考えが示されました。

- ① 本市の誇る文化芸術・歴史などの特性を活かした教育の推進
- ② 市民総ぐるみで子どもの教育を支える取組みの推進
- ③ 特別な配慮を必要とする子どもの支援
- ④ 少子高齢化社会を踏まえた公共施設のマネジメント

これについて、教育委員からは、

- ◆ 子どものキャリア教育の拡充
- ◆ 幼児期からの基本的な生活習慣の確立の重要性
- ◆ 心の健康
- ◆ 特別支援教育への期待
- ◆ 家庭の教育力の低下
- ◆ 青少年育成団体連携のサポート
- ◆ 教員の多忙による課題

などの意見が出され、市長と意見を交わしました。

#### ●「シビックプライド」とは

市民が自分が住んでいる、働いているまちに対して「誇り」や「愛着」を持ち、自らもこのまちを形成している1人であるという意識をもつとともに、自分たちのまちづくりに自発的に関わりたいという意識をもつことです。



## 大綱の方向性について

最後に市長から「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」の施策目標・方針を基本とし、会議で話し合われた内容を大綱に盛り込んでいくとの方向性が示されました。

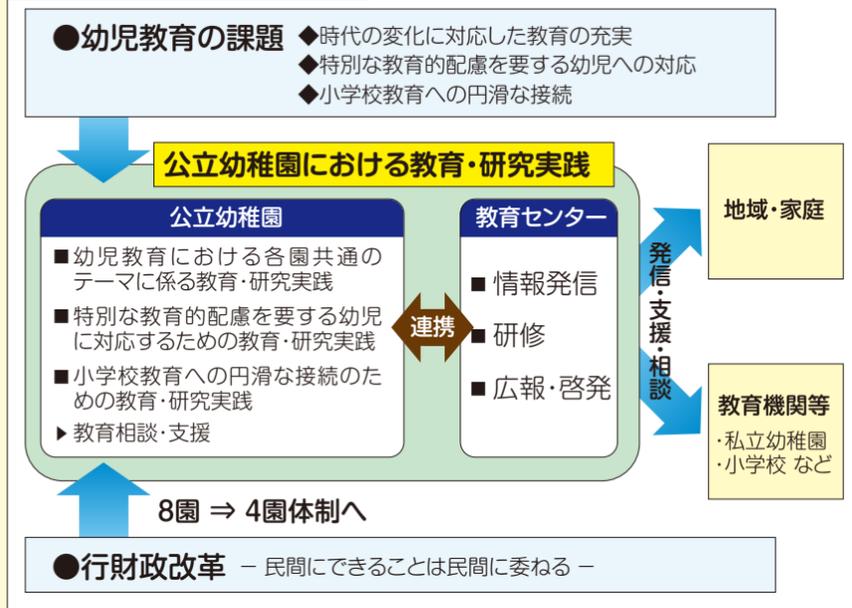
## 公立幼稚園の今後の方向性について

今後、子ども・子育て施策に更なる充実が求められます。これらに限られた財源を充てるため、公立幼稚園8園体制を4園体制に改める方針を公表しました。市内の幼稚園児の98%が私立幼稚園に就園している現状を踏まえたものです。今後、公立幼稚園は、幼児教育の課題解決のために必要な教育・研究実践とその成果の発信に取り組めます。

なお、閉園にあたっては、直ちに園児募集を停止するのではなく、将来の閉園をお知らせした上で、段階的に募集を停止します。

※この方針は、市議会での議論を経て、条例改正をもって正式に決定されます。

### 今後の公立幼稚園の体制



詳しくは市のホームページをご覧ください。

北九州市 公立幼稚園の今後の方向性

検索

## 「北九州市立小・中学校の現状と将来(学校規模適正化白書)」を公表しました

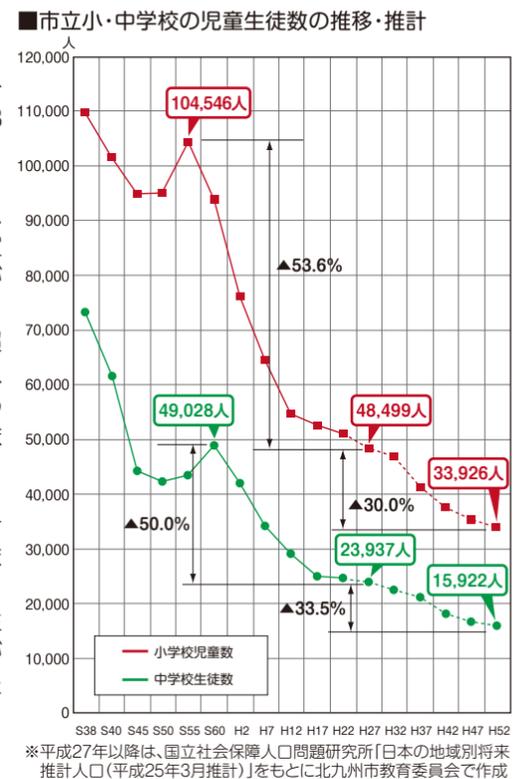
全国的な少子化の中で、北九州市においても、児童生徒数が減少し続けており、学校の規模が小規模化しています。そこで、市立の小・中学校の現状や今後の人口推計(25年後)を踏まえ、将来の学校の姿がどのようになるのかを白書としてまとめました。

### 白書のポイント

- 本市の児童生徒数は、国の減少傾向と同様、今後25年間で約3割減少します。
- 10年後には、小学校で3校に1校が6学級以下となり、クラス替えができず、人間関係が固定化しやすくなるなどの課題があるといわれています。
- 中学校では、20年後に4割を超える学校で、小規模校(8学級以下)となり、免許外指導のような対応も生じることがあります。

白書には、各小中学校別の推計(H27年から5年ごとにH52年まで)データを掲載しています。

なお、この推計は、本市の出生率や死亡率等の人口変動要因が現在の状態を継続すると仮定したときの結果です。



詳しくは市のホームページをご覧ください。

北九州市 学校規模適正化推進事業

検索

# 総合特別支援学校の開校



門司総合特別支援学校の完成イメージ

平成二十八年四月、本市に二つの総合特別支援学校が開校します。門司区矢筈町の旧門司商業高等学校跡地に建築中の門司総合特別支援学校と、小倉南区春ヶ丘の北九州市立総合療育センターの敷地内に、校舎の一部を建築中の(仮称)北九州総合特別支援学校です。

近年、知的障害特別支援学校の児童生徒数が増加傾向にあることや、病弱特別支援学校における障害の質の変化などが課題とされてきました。そこで、東部地域にある特別支援学校の再編整備という形で、複数の障害種に対応する総合特別支援学校を開校することになりました。

## 門司総合特別支援学校

門司総合特別支援学校には、知的障害教育部門(小学部・中学部・高等部)と病弱教育部門(心身症等)(小学部・中学部)が設置されます。知的障害教育部門は、小倉南特別支援学校の児童生徒の一部、病弱教育部門(心身症等)(小学部・中学部)は、門司特別支援学校の児童生徒と、企教特別支援学校に在籍している心身症等の児童生徒が対象となります。知的障害教育部門小学部・中学部の通学範囲は、門司区全域と小倉北区及び小倉南区の一部です。

門司総合特別支援学校の知的障害教育部門高等部では、来年度開校に向けた生徒募集を行います。ただし、学年進行で募集しますので、平成三十一年度に高等部の全学年生徒がそろつてまいります。

(仮称)北九州総合特別支援学校高等部においても、肢体不自由教育部門と病弱教育部門(慢性疾患等)の生徒募集を行います。こちらの学校は北九州特別支援学校と企教特別支援学校の高等部を引継ぐこととなりますので、開校当初から全ての学年がそろつてまいります。

両校の入学者選考に関する内容は、中学校や特別支援学校を通して、該当する学年のご家庭にお知らせします。また、市政だよりにも掲載する予定です。

東部地域の特別支援学校の再編整備に伴って、門司特別支援学校と企教特別支援学校は、二校の総合特別支援学校に統合されます。

(仮称)北九州総合特別支援学校には、肢体不自由教育部門(小学部・中学部・高等部)と病弱教育部門(慢性疾患等)(小学部・中学部・高等部)が設置されます。肢体不自由教育部門は、北九州特別支援学校の全校児童生徒、病弱教育部門(慢性疾患等)(小学部・中学部・高等部)は、企教特別支援学校に在籍している慢性疾患等の児童生徒が対象となります。

## (仮称)北九州総合特別支援学校



# 北九州市 家庭学習マイスター賞

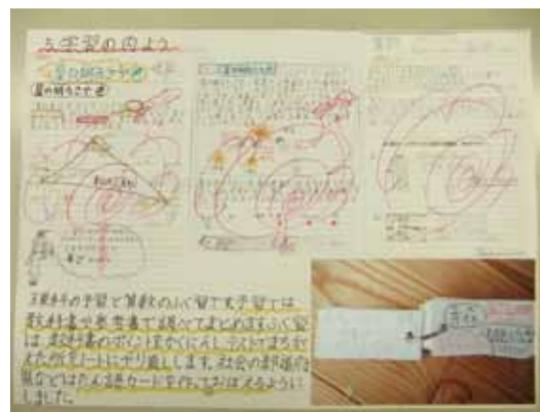
教育委員会では、小学校、中学校、特別支援学校小学部及び中学部の児童生徒を対象に、家庭学習の定着と充実を図り、学力の向上を目指して、主体的、計画的、継続的に家庭学習に取り組んだ児童生徒を表彰する「北九州市家庭学習マイスター賞」を平成25年度より創設しました。

平成26年度は、小学生が986点、中学生が405点の合計1,391点の応募がありました。

厳正な審査の結果、マイスター賞11名、優秀賞10名が選ばれ、平成27年3月4日市立教育センターにおいて、マイスター賞の表彰が行われました。

マイスター賞の取組みについては、北九州市立教育センターのホームページや教育委員会のホームページに掲載しています。

平成27年度も、「第3回北九州市家庭学習マイスター賞」を募集します。9月に応募用紙を全児童生徒に配布しますので、ぜひご参加ください。



## 平成26年度 杉浦奨学生

芸術・文化、学術、スポーツの各分野で優れた成績を残し、将来の北九州市の文化振興の担い手となる人材を育成するため、北九州市文化振興基金の運用益の一部をもって、修学資金の一部が給付される「杉浦奨学生」に、平成26年度はレスリングやバドミントン、卓球、陸上競技、工学(機械工学、センサ工学)で活躍している7名(高校生4名、大学生2名、大学院生1名)の方が決定しました。

平成4年度に事業を開始して以来、平成25年度までに130名が杉浦奨学生として採用され、過去の奨学生の中には、オリンピック代表や世界大会・アジア大会に日本代表として出場された方、国内外での音楽活動など輝かしい実績を挙げている方などが多数おり、平成26年度杉浦奨学生も今後の更なる活躍が期待されます。

■贈呈式(平成26年12月25日)



前日: 杉浦奨学生  
(2名代理出席、2名欠席)  
後日: 審査委員

前日: 杉浦奨学生  
(2名代理出席、2名欠席)  
後日: 審査委員

## 平成26年度 福原賞・久保田賞

「福原賞」は、学校法人「福原学園」を創設された故福原軍造氏のご遺族と現在の福原学園理事長である福原弘之氏から「学校の教育に役立ててほしい。」と北九州市に寄付をいただきました。

本市は、文化的・体育的活動や調査研究等で顕彰すべき成果をあげた小学生の個人及び団体を表彰することとし、平成元年に創設しました。

「久保田賞」は、元若松市市議会議長の故久保田瑞一氏のご遺族から、「中学生の健全育成に役立ててほしい。」と、北九州市に寄付をいただきました。

本市は、善行等顕彰すべき行為のあった中学生の個人及び団体を表彰することとし、昭和62年度に創設しました。

平成26年度の「福原賞」は、個人8組と4団体が受賞し、「久保田賞」は、個人9組と6団体が受賞しました。



福原賞



久保田賞

## 家族で探検隊!

# パズルスタンプを集めて地元の宝を探せ!



子どもたちが、地域の文化・歴史・自然に接することにより、豊かな心を育むとともに、親子のふれあう機会を増やすことを目的として、夏休み期間を中心に、文化施設をはじめ様々な施設に無料または一部割引で入場できるなど特典が受けられる「こども文化パスポート」を配布します。

各施設をめくって、パスポートにスタンプを押していくと、北九州市・下関市・長門市の「宝」(こたえ)が現れます。

こたえが何かわかったら、楽しい賞品の当たる抽選に応募することができます。

パスポートは、北九州市及びその他の対象地域の学校等に通っている、もしくはお住まいの3歳から中学生までに配布します。

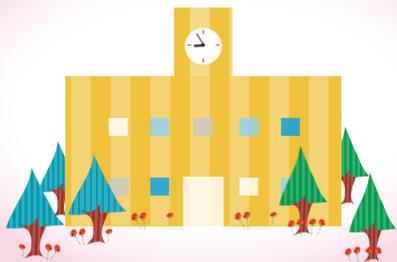
こども文化パスポート 検索



## 校納金のお支払は口座振替が便利です!

給食費や教材費、学習活動費など、児童・生徒が個人で使用するものは、校納金として保護者の皆様に負担していただいています。子どもたちが安心して食べることのできる学校給食を提供したり、教育活動を展開するために、毎月の確実な校納金納入に、ご協力をお願いします。

校納金の納入は、安全で便利な口座振替をご利用ください。ご利用方法などは、学校へお問合せください。



## 企救丘小学校「わかば会」が、地域のボランティア活動で、平成26年度文部科学省「学校安全ボランティア活動奨励賞」を受賞!

企救丘小学校を拠点として、活動を行っている企救丘小学校「わかば会」は、平成17年の発足以来、児童の安全確保のために毎日ボランティア活動を行っています。

企救丘小学校に限らず、志徳中学校や志井小学校校区の通学路における、毎朝の声かけ安全指導を行い、子どもたちへの元気な登校を促進しています。

子どもたち以外にも、校区内の保護者による安全ヘルパー活動に対しても、アドバイスを行うなど学校安全ヘルパーとしても貢献しています。

このほか、学校行事における総合的な学習等で、「昔遊び」や「地域の昔」を指導するなど学習活動にも参加し、広く学校の安全に協力しています。

このような日々の活動が認められ、「学校安全ボランティア活動奨励賞」を受賞しました。

また、昨年12月には北橋市長を表敬し、受賞報告を行いました。

